

被害原因はこれだけでなく、かつて発生した地すべりが谷を埋めて比較的緩傾斜面を形成している場所がある。人家は段丘面及びその緩傾斜面に立地しているものが多い。この古い地すべり地でも被害が大きかった。(図7)



図7 西谷の崩壊

岩田下地域

この地域には3段の地形面が分布している。
a:新しい(下)方から国道404号が通る小千谷段丘相当面 b:これより1段高く(4m)段丘崖が不鮮明な旧道が通る地形面 c:山際のさらに傾斜した扇状地面。

大きな被害はこのうちb地形面上に集中している。緩傾斜の段丘面の盛土が目につく。



図8 岩田下 応急のブルーシート

越路中学校

越路中学校では特別教室棟の被害が最も大きく幅75cmの柱のすべてが地面から2mほどの高さで大きく共役性の断裂でズタズタに壊れていた。小千谷高校は化粧柱の一部に断裂があった程度であり、これと比較して越路中学校が大きいことがわかる。着工年が1960年(小千谷高校は1977年)1971年に建築基準法が改



図9 越路中学校の被害

正されていることや越路中学校が段丘崖に近いところに位置していることが震央からの距離が離れているにもかかわらず被害が大きかったものと想像される。

中越地震の教訓

被害調査や体験から以下のことを提案したい。

- 地震の備え、連絡方法、避難場所、災害グッズ、携帯の充電器等 家族内で話し合う
 - すぐにできる対策 家具類の転倒防止対策
 - 家の耐震補強
 - 地盤改良
 - ハザードマップづくりとその公表(地方自治体)
 - 地震は忘れないうちにやってくる
 - 地震は広範囲にまんべんなく被害を与える
 - 国に対しては自然災害対策に金をかけてもらう
 - コミュニティーのあり方の再検討
- 中越地震の被災地・中山間地は地域コミュニティが比較的残っており、助け合いや避難後の共同生活がうまくできたと言われている。しかし、新興住宅地では同じようにはいかなかった。

この地震は家族内コミュニケーションの取り方やボランティア活動の大切さについても考えさせられた体験であった。

(講演内容を大地の会で要約、文責は大地の会)

「地域復興交流会議」参加報告

大地の会 中野雅子

2月17-18日、一泊二日の日程で「地域復興交流会議」が蓬平温泉で開催されました。大地の会からは、小川会長と中野が参加したので、ご報告いたします。

そもそも、地域復興交流会議って何？と思われる方が多いと思います。この会議は、中越復興市民会議が主催したイベントで、主に中越地域でがんばっている NPO 団体などに声がかかりました。そのねらいは、団体どうしが横に繋がり、おたがいが良い刺激を受けることでさらに地域を盛り立ててゆきましょう！ということにあります。

2日間の日程では、専門家や行政、市民会議のスタッフの方々による「復興」をテーマとする講演、各 NPO 団体の自己紹介・自己アピール、懇親会、ワークショップなどが行われました。総勢約 150 人、中越地域の人だけではなく、地震の時にボランティアとして現地入りしてくれた県内外の人たちが集まりました。

大地の会ではちょうど中越地震体験集の発刊直前というタイムリーな時期でもあったので、会長と二人、体験集を精一杯アピールしてきました。が、ちょうど宴席の最中にやってしまったために聞く人はちらほら。そんななか、数名の方からのご注文をいただきました。また、同時にマップも販売し、好評のうちに 10 部が売れた次第です。

商売(?)の話はともかく、この会議に参加してもっとも印象的だったのは、地震で生活に大きな被害を受けたはずの中山間地の人たちが、予想以上に元気だったことです。川口町の田麦山、木沢、十日町の池谷、山古志の竹沢、小千谷の人たちがおられました。どの方たちも共通して、自分たちの地域にある「宝」を再発見し、これを大いに活かして外からの人たちとの交流を深めよう、という意欲にあふれていました。

地震がなかったら、山の暮らしは平穏だった



団体の自己紹介タイム。写真は「ながおか三尺玉ネット」のお母さん方の寸劇。あまりのすごさに一同、圧倒されました。

かもしれませんが、過疎化と高齢化の問題は同じです。地震によって図らずも「ボランティア」という外との交流が生まれたことで、地域が活性化しているような気がします。さらに、ボランティアをきっかけに新たに若い人たちが移り住んできたことで、過疎化・高齢化にも歯止めがかかっている地域もみられます。地震後に着実に元気を取り戻しているのは、こうした外部からの「風」をうまく取り入れている地域なのかもしれないと感じました。

なお、「復旧」と「復興」の違いについて、講師の上村靖司先生は、「復旧」とは道路や建物などの「物」が元の通りにもどること、「復興」とは漠然としたものではあるが地域やそこに住む人たちが元気になること、そして「復興」には終着点はない、とお話されました。

今はまさに「復旧」がほぼ終わり、あとは「復興」をどうしていくかという時期です。復興への鍵は、地元の人とのふりさとへの愛着と外からやってきた人たちの新しい視点、そして若い力。一筋縄では行かないかもしれませんが、これらがうまくかみ合うと地域が元気づいていくのかなと思いました。大地の会も地域の活性化に一役買えるようになればと、強く感じた2日間でした。

語りつぐ 10.23ーふるさとの大地と中越地震ー発刊

大地の会では昨年から編集を進めていました中越地震体験集を2月末に発刊しました。1993年、会の発足から大地の成り立ちを学習してきた私たちの視点で、中越地震体験をとりまとめ、被害と地盤の関係について解りやすく解説しました。この体験集に綴られた体験をご自身の体験と重ねあわせ、今後の防災について考えてみましょう。

一冊 頒価500円です。多くの方々からお読み頂きたいと思います。
是非お近くの方々にお知らせいただきますようお願いいたします。

内容紹介

第1部 中越地震体験

- 〔1〕地震体験 89編の体験を以下に分類して掲載
- 〔2〕アンケートでみる中越地震
- 〔3〕第1部のむすびとして ～地震への備え～

第2部 地質の目から見た地震災害

- 〔1〕中越地震の発生とその背景
- 〔2〕地震の被害と地盤の関係

第3部 私たちの取り組みと大地の会のあゆみ

- 〔1〕大地の会と中越地震
- 〔2〕大地の会のあゆみ

本書表紙



下記の役員にご連絡ください・

小川 幸雄 (篠花)	090-4672-7681
永井千恵子 (来迎寺)	92-2407
大谷 晴男 (西谷)	090-2532-1330
丸山 哲 (飯塚)	090-5439-9416
遠藤よつえ (来迎寺)	92-6739
松井 直子 (朝日)	92-3453
金子 秀樹 (岩田)	92-3049
鷺山 厚 (上除)	47-2316
小林 和子 (来迎寺)	92-6069
中野 雅子 (中沢)	090-5509-8371
山後 栄子 (来迎寺)	92-4882

■申し込み

購入申し込みはFAX。メールまたはお近くの大地の会役員まで。

FAX 92-2407 大地の会事務局 永井千恵子

mail: chieko-n@m2.nct9.ne.jp

長岡・妙見 絶滅ほ乳類カイギュウ 200 万年前の化石発見

2月10日付け新潟日報に標記の記事が掲載されました。内容は巡検で視察した中越地震で土砂崩れが発生した県道の復旧工事現場で大型の海生哺乳類海牛の一種とみられる化石が発見された。調査にあっている長岡市科学博物館(本会顧問の加藤正明さん担当)では見つかった化石はろっ骨や前腕骨など破片を含め百点以上、ろっ骨は太いもので直径7cmほどあった。発見された場所は白岩層と呼ばれる砂が混じる泥岩の地層で、かつては水深数10mから100mほどの海だった。地層から化石の年代は200～250万年前と推定されている。北海道、山形などで化石が見つかったが、県内では初めて。

発掘にかかわった古生物研究者の堀川秀夫さん(本会顧問)は「国内で大海牛の化石が見つかったのは数例で、発見自体が珍しい。新種の可能性もある」とのこと。

大地の会では、調査が進んだ段階で顧問の両氏にお願いして報告して頂きたいと考えています。ご期待ください。

賛助会員紹介

帝国石油株式会社国内本部
朝日酒造株式会社
株式会社エコロジーサイエンス
有限会社越路地計
大原技術株式会社
有限会社広川測量社
高橋調査設計事務所
株式会社長測
有限会社中越測量社

大地の会会報 おいたち 49・50 合併号

2007.3 発行

問合せ先 〒949-5493 長岡市浦 715 番地

長岡市教育委員会越路分室

担当 桑原浩志 TEL 0258(92)5910

ksj-kyoiku@city.nagaoka.lg.jp

大地の会代表 小川幸雄 携帯: 090-4672-7681

y-ogawa@m2.nct9.ne.jp

<http://www10.plala.or.jp/wai2club/daitchi>